

C1 Espresso (クライストチャーチ)



朝食から贅沢!筒状のボックスに入ったハンバーガーが、チェイスを通して席まで飛んできます。エッグベネディクトやフレンチトースト、オムレツも美味しいオススメカフェです。セルフサービスの給水器からは、なんと炭酸水が出てきます。壁面には漫画のパネルの吹き出しが日本語になっていたり、トイレの入り口が隠し扉になっていたり遊び心満載。市内中心部から歩いて10分くらいです。



185 High Street, Christchurch 8011, New Zealand
+64 3-379 1917

キュレーターズハウス (クライストチャーチ)



なんと、ハグレー公園の敷地内に建つロケーション抜群のスペイン料理店バリエヤ(2人前〜)がとても美味しかったです。要予約



7 Rolleston Avenue | Christchurch Botanic Gardens, Christchurch 8013, New Zealand
+64 3-379 2252

トウェンティ・セブン・ステップス (クライストチャーチ)



16 New Regent Street, Christchurch 8011, New Zealand
+64 3-366 2727



サキモト・ジャパニーズ・ビストロ (クライストチャーチ)



日本人が食べても美味しい日本食屋さん。日本人スタッフの方が丁寧に对应して下さいます。オススメはサケのてりやき。日本では見かけない料理ですがめっちゃうまです。ニュージーランドのサケはラムと並んでマストです。要予約

119 Worcester Street | Cathedral Junction, Christchurch 8011, New Zealand
+64 210 830 6389

ハーバーサイドオーシャン
バーアンドグリル (オークランド)

港を見下ろすフェリービルディングの2階にあるレストラン。魚介の盛り合わせ、スラッターには生カキや刺身、イカリング、手長エビのグリルなどがぎっしり。(写真で2人前)お箸も出てきます。シェアOKなので色々頼んでみんなでシェアしましょう。絶品マグロステーキ、柔らかな鹿肉、香ばしいリスロースステーキ、また食べたくまりました!食後はフラットホワイトで!



99 Quay Street | The Ferry Building, Auckland Central, Auckland 1010, New Zealand
+64 9-307 0556

最高のお菓子をお客様へ。



西宮市相生町7-12

☎ 0120-440-380

営業時間:月木金土日 AM9:30~PM12:30, PM1:00~PM6:00

毎週水曜日:クッキーデー(ギフト商品のみ販売となります)
AM10:00~PM12:30 / PM1:00~PM4:00

定休日:毎週火曜

営業日時は変動する場合がございます 最新情報はWEBのカレンダーでご確認ください

エルベラン 検索 <http://elberun.gift>

コーナーシェフ
柿田 衛二の
Blog



ニュージーランドでは、昨年からレジ袋が一切廃止になっています(例外として免税店・土産物店では袋をくれますが) 高額な商品の場合は紙袋が付きますが、通常の商品を購入したときは自分のエコバッグまたは紙もしくはエコバッグを購入が当たり前に行われています。旅行時はお忘れなく!

また、働き方も徹底されており飲食店、コンビニ、スーパー以外は17時もしくは遅くとも18時にほとんどの店が閉まります。日本では働き方改革は雇用されている人の権利のように思われていますが、ニュージーランドでは商売を営む人も含め、すべての人の権利なんです。ただしそのために、日本よりも物価は高いです!薄利多売をアホのすることだと思っている上に、消費税15%、2%のインフレーターゲットを実行しており、最低時間賃金も現在1300円ほど。不動産価格も都市部では日本と変わりません。また、仕事の範囲を明確にしている、例えば行政でも苦情は一切受け付けず、正当なクレームであれば訴訟を起こすようにしているとか。移民局の相談窓口をなくしてしまっ、相談があれば自分でコンサルタントを雇う、自分でできることは自分でするを徹底しているそうです。日本人として学ぶべきところ、見習うところがたくさんありました。



ÉLBÉRUN

Shukugawa Since 1964

La Poste



2019
Octobre
Vol.12



こんにちは、Pure Slow Sweets 専門店エルベランオーナーシェフ柿田です。8月20日から27日まで夏休みを頂きました。皆さんありがとうございました。スタッフも、東京、沖縄、東南アジアとそれぞれ夏休みを楽しんだようです。僕はと言うと、生まれて初めての南半球・ニュージーランドへ行ってきました。半分は家庭の事情、半分は観光です。

皆さん、ニュージーランドってどんなイメージを持たれていらっしゃるでしょうか？人口よりも羊の多い牧歌的な景色？ボリュームばかりで味気ない食事？日本と真逆の季節？日本が真夏だとニュージーランドは真冬ですから、当然観光もオフシーズン。飛行機も関空からの直行便は、運行していません。ガイドブックにも詳しい情報が無く、あってもサマーシーズンはかりで、正直僕も「何があるのかな？」と、少し思っていました。

8月20日伊丹空港を昼過ぎに出発。成田で18時フライトのニュージーランドオークランド空港行に乗り込みます。ところが、天候不順で離陸が50分遅れてしまいました。まあそんなこともあるかと、気に留めていませんでしたが、これが悲劇を生みます。

僕の目的地はオークランドではなくクライストチャーチ。そう、乗り継ぎがあったのです。オークランド空港に着いた時には8月21日朝の9時を回っており、10時発の乗継便の出発まで50分を切っていました。客室乗務員に確認したところ間に合いますとの返事。ダッシュで国内線カウンターまで急ぎました。

ところが、国内線カウンターの係員はもう間に合わないから、チケットを変更してくれと言っています。交渉していると「柿田」の名前を呼ぶアナウンスが！（最終搭乗ですというあれです）「ほれみる名前を呼んでいるぞ」と係員に言うと、仕方ないという顔でチケットを出せというので「お？乗れるのかな？」と思ったら13時のフライトのチケットを渡してニコリ。結局クライストチャーチに着いたのは、家を出てから25時間後の事でした（スラジルに行けるぞ……）。

いよいよクライストチャーチに着陸します。上空から見ると、オークランドのある北島とクライストチャーチのある南島では景色が違うことに気づきました。緑が多くなると低い山の多い北島に比べ、南島は真っ白な雪をかぶった高い山脈が連なって見えました。

それもそのはずで、北島は火山活動によってできており、また、南島は太平洋プレートがオーストラリアプレートにぶつかることによってできているため、全く成り立ちが異なるからです。さて、外はさぞかし寒いだろうと用意してきた冬服をゴソゴソと取り出して空港から出てみると、これが意外と寒くない！8月21日の日中の気温は15℃ほどあり、薄着でも出られる陽気です。



クライストチャーチは人口約39万人、南島最大の都市です。到着後まず向かったのは、ニュージーランドで一番売れているクッキー屋さん「クッキータイム」の工場併設の直営店でした。

時間が遅く、残念ながら工場見学は叶いませんでした。大振りで食べ応えのあるクッキー、日本だとこういったクッキーには、まずマーガリンや乳化剤が使われているのが相場ですが、さすが酪農の国バターを使った美味しいクッキーでした。



工場直営店ならではの大量のお土産を、3つ4つ購入し会計を済ませると、レジのお姉さんがハイ！と言ってドサッと商品を渡します。そうです、忘れていました。ニュージーランドは世界に先駆けてレジ袋を撤廃した国でした。慌ててカバンからエコバックを取り出しクッキーをしまうと、お姉さんがいいね！の合図。こう言うところ、日本はまだだだな～。

さて、クライストチャーチですが、シティセントルと呼ばれる中心街を清流エイボン川が流れ、世界で3番目に大きいと言われるハグレー公園が広がるまさにガーデンシティの名にふさわしい町です。2011年2月22日東日本大震災1か月前に起こったカンタベリー地震により日本人留学生28人を含む185人が犠牲になりました。地震から8年以上がたった今でもクライストチャーチ大聖堂をはじめ崩れた建物がそのまま残っていたりします。



▲紙の教会



▲崩れた大聖堂

地震の犠牲者の数だけ並べられた白い椅子の置かれた広場を通り、大きな道を曲がると、日本人の坂茂（ばんしげる）氏が設計した「紙の教会」があります。これは地震で半壊した大聖堂の代わりとなる仮設教会で屋根部分を支える柱や祭壇、十字架まで紙で製作されています。また、土台の部分にもコンテナが利用されており、いずれ大聖堂が修復された時には解体しやすいように設計されているそうです（とは言え、50年は保つらしいですけど）。

教会を後にして次に訪れたのは、クライストチャーチを一望できる高台です。クライストチャーチにもご多分に漏れずヒルズがあり、小高い丘に高級住宅街があります。カンミヤヒルズと呼ばれ、近年高騰を続ける市内の地価の中でも群を抜く高さだそうです。心地よい春間近の風に吹かれて眺める景色はとても素敵でしたよ！

教会を後にして次に訪れたのは、クライストチャーチを一望できる高台です。クライストチャーチにもご多分に漏れずヒルズがあり、小高い丘に高級住宅街があります。カンミヤヒルズと呼ばれ、近年高騰を続ける市内の地価の中でも群を抜く高さだそうです。心地よい春間近の風に吹かれて眺める景色はとても素敵でしたよ！



▼カシミアヒルズ

クライストチャーチで日本人にとって嬉しいことは、水道水が飲めることではないでしょうか。サザンアルズに降る雪が地下水となり豊富に湧き出ているので市内でもほとんど塩素を加えなくても水が飲めるようで、水道料金定額制で使い放題なんだそうです。

ニュージーランド



紀行

オーナーシェフ 柿田 衛二の

日本の水道は世界一だと思っていましたが、なんだかこっちの方がよさそうですね。ハグレー公園を流れるエイボン川もこの湧水によって出来ているため、とても澄んでいます。夕暮れのエイボン川を眺めながら「来てよかったなあ」と、思いました。



▲エイボン川の夕暮れ

南島の観光と言えばやはり雄大なサザンアルズの景色です。

行程的に最高峰のマウントクックまでは行けませんが、やはり間近で見たい。そういう方にお勧めなのが「トランツアルパイン列車1日観光」です。トランツアルパインは、クライストチャーチ駅から南島を横断して西海岸のグレイマウス駅までの全長220キロを超える距離を結んでいますが、このツアーでは、サザンアルズの入り口にあたるスプリングフィールド駅から列車に乗車し、カンタベリー平野を出てワイカマリリ川の深谷を渡りサザンアルズの山々を眺めながらアーサーズバス駅にまで至る約1時間半の列車の旅を楽しめます。カンタベリー平原の中、雄大なサザンアルズをバックにしたスプリングフィールド駅は何とも言えない風情があります。



スプリングフィールド駅



駅舎内です



スプリングフィールド駅にて

遠くから現れた列車が汽笛を2回鳴らすと到着の合図です。列車に乗り込み席に着きます。到着予定時間よりも10分程早く着いたため停車時間が10分長い。1日1便のためか結構ざっくりしたダイヤです（その他にも貨物列車はあるようですが）。大きく2回再び汽笛を鳴らすと出発の合図です。車内は景色を楽しむためにとても大きく窓をレイアウトしていて天井の角まで広がっています。また、トロッコ列車のように壁のない車両もあり、景色をじかに撮影したい人たちがベストショットを求めて陣取っていました。



Kiwi Rail
列車の名前もカラーリングもニュージーランド！

日本では見なくなった食堂車で軽食と飲み物を購入し1時間半のサザンアルズの大パノラマ列車旅を楽しみます。まだまだ茶色の多い平原とところどころ黄色い花が咲いています。遠くに見ていた真っ白な雪をかぶった山々がだんだんと近くなり見上げる高さへと迫ってきています。急な斜面に見えるのは羊の群れです。こんな人里離れた（と勝手に思っている）場所にも牧場があるんですね。

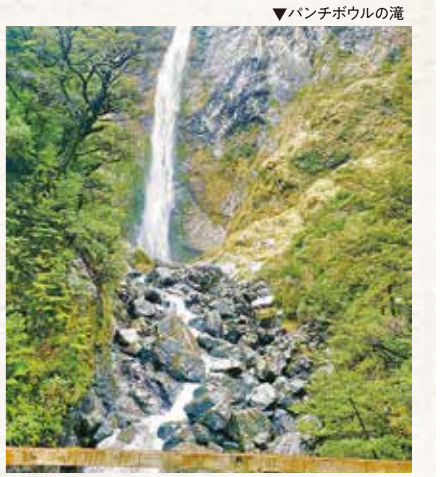


▲アーサーズバス駅



▲トランツアルパイン

まぶしい日差しが高い山々の頂上あたりから差し込んできます。今日はいい天気よかったです！と思って降りたアーサーズバス駅はあいにくの小雨模様。冷たい雨に打たれて寒い！ここからは昼食前の腹ごしらえ、落差131mのデビルズパンチボールの滝まで軽くハイキングです。



▼パンチボールの滝

これがなまった体には結構きついです。通常で滝までの往復1時間～1時間半と聞いていたのですが、いきなりのぼり階段の連続に、肺の中の空気が一気に全部ニュージーランド産に入れ替わりました。結局40分ほどで帰ってきてレストランでハンバーガーをムシャムシャ食べたんですが、めっちゃ美味しかったです（笑）そこからの帰りはガイドさんの車に乗り換えて国道73号線グレートアルパインハイウェイを東へ、途中何か所かの撮影スポット（ロードオフザリングのロケ地なんかもあります）で、停車しつつクライストチャーチまで帰ります。

▼国道73号線グレートアルパインハイウェイ



このツアー、これで終わりではなく最後にキウイバードが見られるクライストチャーチの動物園、ウィローバンク野生動物公園に立ち寄ります。様々な鳥や動物、アヒルやら牛やらウナギやらに餌をやりながらキウイバードが飼育されている真っ暗な建物に入るとポオッと赤い電灯がついており薄暗い中に倒れた木や草がやっと見えています。脅かさないように静かに中を見回していきます。でも暗くてとても奥の方までは見えません。どこだ？あれかな？そう思いながら10分程いましたが結局見られませんでした。キウイは一日18時間ほど寝るらしいので、見られないときはどうやっても見られないらしいです。また建物が工事中で警戒しているのも影響しているのかも知れません。（後日別の場所で見たのでモヤモヤは解消できましたよ！）暗視カメラの貸し出しを希望します（笑）南島だけでもまだまだ楽しい所がいっぱいですが、紙面の関係で今回はここまで。最後に美味しい料理とオススメレストランをご紹介します！

